

資料 分析結果

表1 場内浸透水、周辺地下水[Ks3層その1]

調査地点	場内浸透水				K s 3 層 地 下 水								安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準			
	揚水ピット				H24-8(2)				H26-S2(2)								
採取日	R5.5.18				R5.5.18					R5.5.18							
現場測定項目	現場測定結果				現場測定結果				現場測定結果								
気温(°C)	28.0				25.0					29.0							
水温(°C)	20.0				16.3					19.0							
採水水深(m)(GLより)	-				4.36					10.32							
分析項目	分析結果				年間平均値	分析結果				年間平均値	分析結果				年間平均値		
pH	7.4				7.4	6.2				6.2	6.9				6.9	-	-
BOD(生物化学的酸素要求量)(mg/L)	1.2				1.2	-				-	2.8				2.8	20mg/L	-
COD(化学的酸素要求量)(mg/L)	7.6				7.6	-				-	13				13	40mg/L	-
SS(浮遊物質)(mg/L)	1.8				1.8	-				-	3.5				3.5	-	-
電気伝導度(mS/m)	110				110	18				18	150				150	-	-
カドミウム(mg/L)	< 0.0003				< 0.0003	-				-	< 0.0003				< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素(mg/L)	< 0.005				< 0.005	-				-	< 0.005				< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素(mg/L)	0.28				0.28	-				-	0.20				0.20	-	0.8mg/L
ほう素(mg/L)	0.7				0.7	-				-	1.5				1.5	-	1mg/L
鉛(mg/L)	< 0.005				< 0.005	-				-	< 0.005				< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀(mg/L)	< 0.0005				< 0.0005	-				-	< 0.0005				< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB(mg/L)	不検出				不検出	-				-	不検出				不検出	検出されないこと(<0.0005mg/L)	検出されないこと(<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン(mg/L)	< 0.001				< 0.001	-				-	< 0.001				< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン(mg/L)	< 0.0005				< 0.0005	-				-	< 0.0005				< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.002				< 0.002	-				-	< 0.002				< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.004				< 0.004	-				-	< 0.004				< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.002				< 0.002	-				-	< 0.002				< 0.002	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.002				< 0.002	-				-	< 0.002				< 0.002	-	-
ベンゼン(mg/L)	< 0.001				< 0.001	-				-	< 0.001				< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン(mg/L)	< 0.0002				< 0.0002	-				-	< 0.0002				< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジメチル(mg/L)	0.010				0.010	-				-	0.036				0.036	0.05mg/L	0.05mg/L
ダイオキシン類(pg-TEQ/L)	0.023				0.023	-				-	0.022				0.022	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L
鉄(mg/L)	0.64				0.64	-				-	0.39				0.39	-	-
マンガン(mg/L)	0.22				0.22	-				-	3.9				3.9	-	-
溶解性鉄(mg/L)	0.05				0.05	-				-	0.07				0.07	-	-
溶解性マンガン(mg/L)	0.18				0.18	-				-	3.4				3.4	-	-
全窒素(mg/L)	2.74				2.74	-				-	-				-	-	-
アンモニア性窒素(mg/L)	0.97				0.97	-				-	-				-	-	-
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素(mg/L)	1.43				1.43	-				-	-				-	-	10mg/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(トリクロロベンジ(イ)チン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

表2 周辺地下水[Ks3層その2、Ks2層その1]

調査地点	K s 3 層 地 下 水						K s 2 層 地 下 水						安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
	H24-2(2)			H24-4(2)			H24-7							
採取日	R5.5.18			R5.5.18			R5.5.18							
現場測定項目	現場測定結果			現場測定結果			現場測定結果			現場測定結果				
気温(°C)	25.0			26.5			23.0							
水温(°C)	16.1			15.4			19.1							
採水水深(m)(GLより)	14.95			5.30			9.78							
分析項目	分析結果			分析結果			分析結果			分析結果				
	年間平均値			年間平均値			年間平均値			年間平均値				
pH	6.1			6.1	5.1		5.1	6.5			6.5	-	-	
BOD(生物化学的酸素要求量)(mg/L)	0.9			0.9	0.5		0.5	0.7			0.7	20mg/L	-	
COD(化学的酸素要求量)(mg/L)	1.9			1.9	0.5		0.5	3.0			3.0	40mg/L	-	
SS(浮遊物質)(mg/L)	< 1.0			< 1.0	1.7		1.7	3.9			3.9	-	-	
電気伝導度(mS/m)	30			30	7.7		7.7	9.9			9.9	-	-	
カドミウム(mg/L)	< 0.0003			< 0.0003	< 0.0003		< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L	
ひ素(mg/L)	< 0.005			< 0.005	< 0.005		< 0.005	0.010			0.010	0.01mg/L	0.01mg/L	
ふっ素(mg/L)	< 0.08			< 0.08	< 0.08		< 0.08	< 0.08			< 0.08	-	0.8mg/L	
ほう素(mg/L)	0.1			0.1	< 0.1		< 0.1	< 0.1			< 0.1	-	1mg/L	
鉛(mg/L)	< 0.005			< 0.005	< 0.005		< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L	
総水銀(mg/L)	< 0.0005			< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L	
PCB(mg/L)	不検出			不検出	不検出		不検出	不検出			不検出	検出されないこと(<0.0005mg/L)	検出されないこと(<0.0005mg/L)	
トリクロロエチレン(mg/L)	< 0.001			< 0.001	< 0.001		< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L	
テトラクロロエチレン(mg/L)	< 0.0005			< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L	
1,1-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.002			< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002			< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L	
1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.004			< 0.004	< 0.004		< 0.004	< 0.004			< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L	
シス-1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.002			< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-	
トランス-1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.002			< 0.002	< 0.002		< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-	
ベンゼン(mg/L)	< 0.001			< 0.001	< 0.001		< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L	
クロロエチレン(mg/L)	< 0.0002			< 0.0002	< 0.0002		< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L	
1,4-ジオキサン(mg/L)	0.005			0.005	< 0.005		< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.05mg/L	0.05mg/L	
ダイオキシン類(pg-TEQ/L)	0.021			0.021	0.032		0.032	0.022			0.022	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L	
鉄(mg/L)	0.07			0.07	0.06		0.06	6.4			6.4	-	-	
マンガン(mg/L)	0.28			0.28	0.03		0.03	1.3			1.3	-	-	
溶解性鉄(mg/L)	0.05			0.05	< 0.01		< 0.01	5.5			5.5	-	-	
溶解性マンガン(mg/L)	0.23			0.23	0.02		0.02	0.53			0.53	-	-	

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロベンゾゲイナント)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

表3 周辺地下水[Ks2層その2]

調査地点	K s 2 層 地 下 水														
	No. 1-1				H24-6(2)				No. 4-2						
採取日	R5.5.18				R5.5.18				R5.5.18						
現場測定項目	現場測定結果				現場測定結果				現場測定結果						
気温(°C)	23.0				29.0				25.0						
水温(°C)	17.1				19.9				17.1						
採水水深(m)(GLより)	11.90				9.57				14.27						
分析項目	分析結果				分析結果				分析結果				年間平均値	安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
pH	6.9				6.9	6.0			6.0	6.7			6.7	-	-
BOD(生物化学的酸素要求量)(mg/L)	< 0.5				< 0.5	< 0.5			< 0.5	< 0.5			< 0.5	20mg/L	-
COD(化学的酸素要求量)(mg/L)	2.7				2.7	< 0.5			< 0.5	0.9			0.9	40mg/L	-
SS(浮遊物質量)(mg/L)	< 1.0				< 1.0	9.7			9.7	< 1.0			< 1.0	-	-
電気伝導度(mS/m)	60				60	8.7			8.7	19			19	-	-
カドミウム(mg/L)	< 0.0003				< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	< 0.0003			< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素(mg/L)	< 0.005				< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素(mg/L)	< 0.08				< 0.08	< 0.08			< 0.08	< 0.08			< 0.08	-	0.8mg/L
ほう素(mg/L)	0.2				0.2	< 0.1			< 0.1	< 0.1			< 0.1	-	1mg/L
鉛(mg/L)	< 0.005				< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀(mg/L)	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB(mg/L)	不検出				不検出	不検出			不検出	不検出			不検出	検出されないこと(<0.0005mg/L)	検出されないこと(<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン(mg/L)	< 0.001				< 0.001	< 0.001			< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン(mg/L)	< 0.0005				< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	< 0.0005			< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.002				< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002			< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.004				< 0.004	< 0.004			< 0.004	< 0.004			< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.002				< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.002				< 0.002	< 0.002			< 0.002	< 0.002			< 0.002	-	-
ベンゼン(mg/L)	< 0.001				< 0.001	< 0.001			< 0.001	< 0.001			< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン(mg/L)	< 0.0002				< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	< 0.0002			< 0.0002	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジオキサン(mg/L)	< 0.005				< 0.005	< 0.005			< 0.005	< 0.005			< 0.005	0.05mg/L	0.05mg/L
ダイオキシン類(pg-TEQ/L)	0.022				0.022	0.034			0.034	0.022			0.022	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L
鉄(mg/L)	0.04				0.04	0.11			0.11	0.06			0.06	-	-
マンガン(mg/L)	< 0.01				< 0.01	0.02			0.02	0.04			0.04	-	-
溶解性鉄(mg/L)	< 0.01				< 0.01	0.02			0.02	0.02			0.02	-	-
溶解性マンガン(mg/L)	< 0.01				< 0.01	< 0.01			< 0.01	0.03			0.03	-	-

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロベンゾゲイナント)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

表4 周辺地下水[Ks2層その3]

		K s 2 層 地 下 水													
調査地点		H26-S2				No. 1				No. 3-1					
採取日		R5. 5. 18				R5. 5. 18				R5. 5. 18					
現場測定項目		現場測定結果				現場測定結果				現場測定結果					
気温 (°C)		30.0				30.0				25.0					
水温 (°C)		20.9				21.6				19.7					
採水水深 (m) (GLより)		19.39				15.57				13.98					
分析項目		分析結果				分析結果				分析結果				安定型最終処分場の浸透水の基準 地下水環境基準	
		年間平均値				年間平均値				年間平均値					
pH		7.2				6.6				7.0				-	
BOD (生物化学的酸素要求量) (mg/L)		0.9				1.0				< 0.5				20mg/L	
COD (化学的酸素要求量) (mg/L)		2.5				15				2.3				40mg/L	
SS (浮遊物質) (mg/L)		1.2				63				16				-	
電気伝導度 (mS/m)		23				150				45				-	
カドミウム (mg/L)		< 0.0003				< 0.0003				< 0.0003				0.003mg/L	
ヒ素 (mg/L)		0.021				< 0.005				0.027				0.01mg/L	
ふっ素 (mg/L)		0.14				0.12				0.25				-	
ほう素 (mg/L)		< 0.1				0.9				0.2				1mg/L	
鉛 (mg/L)		< 0.005				< 0.005				< 0.005				0.01mg/L	
総水銀 (mg/L)		< 0.0005				< 0.0005				< 0.0005				0.0005mg/L	
PCB (mg/L)		不検出				不検出				不検出				不検出	
トリクロロエレン (mg/L)		< 0.001				< 0.001				< 0.001				0.01mg/L	
テトラクロロエレン (mg/L)		< 0.0005				< 0.0005				< 0.0005				0.01mg/L	
1,1-ジクロロエレン (mg/L)		< 0.002				< 0.002				< 0.002				0.1mg/L	
1,2-ジクロロエレン (mg/L)		< 0.004				< 0.004				< 0.004				0.04mg/L	
シス-1,2-ジクロロエレン (mg/L)		< 0.002				< 0.002				< 0.002				-	
トランス-1,2-ジクロロエレン (mg/L)		< 0.002				< 0.002				< 0.002				-	
ベンゼン (mg/L)		< 0.001				< 0.001				< 0.001				0.01mg/L	
クロロエチレン (mg/L)		< 0.0002				< 0.0002				< 0.0002				0.002mg/L	
1,4-ジメチル (mg/L)		< 0.005				0.015				< 0.005				0.05mg/L	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)		0.030				0.052				0.027				1pg-TEQ/L	
鉄 (mg/L)		0.95				51				8.3				-	
マンガン (mg/L)		0.94				12				3.7				-	
溶解性鉄 (mg/L)		0.62				27				5.5				-	
溶解性マンガン (mg/L)		0.49				4.6				1.3				-	
全窒素 (mg/L)		-				5.49				-				-	
アンモニア性窒素 (mg/L)		-				5.05				-				-	
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素 (mg/L)		-				< 0.01				< 0.01				10mg/L	

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(トクロロベンゾ「ダイキシン」)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによるろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

表5 周辺地下水[Ks2層その4]

		K s 2 層 地 下 水																	
調査地点		H24-2				H24-4				市No. 3									
採取日		R5. 5. 18				R5. 5. 18				R5. 5. 18									
現場測定項目		現場測定結果				現場測定結果				現場測定結果									
気温(°C)		24.0				26.0				26.0									
水温(°C)		16.5				19.3				15.0									
採水水深(m)(GLより)		25.35				19.50				-									
分析項目		分析結果				分析結果				分析結果				年間平均値					
		年間平均値				年間平均値				年間平均値				年間平均値					
pH		6.9				7.0				7.0				6.5		-	-		
BOD(生物化学的酸素要求量)(mg/L)		0.6				2.3				2.3				-				20mg/L	-
COD(化学的酸素要求量)(mg/L)		4.3				6.4				6.4				-				40mg/L	-
SS(浮遊物質)(mg/L)	< 1.0	< 1.0				1.6				1.6				1.1				-	-
電気伝導度(mS/m)		73				120				120				93				-	-
カドミウム(mg/L)	< 0.0003	< 0.0003				< 0.0003				< 0.0003				-				0.003mg/L	0.003mg/L
ひ素(mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005				< 0.005				-				0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素(mg/L)	0.10	0.10				< 0.08				< 0.08				-				-	0.8mg/L
ほう素(mg/L)	0.6	0.6				0.4				0.4				-				-	1mg/L
鉛(mg/L)	< 0.005	< 0.005				< 0.005				< 0.005				-				0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀(mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005				< 0.0005				< 0.0005				0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB(mg/L)	不検出	不検出				不検出				不検出				-				検出されないこと(<0.0005mg/L)	検出されないこと(<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン(mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001				< 0.001				-				0.01mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン(mg/L)	< 0.0005	< 0.0005				< 0.0005				< 0.0005				-				0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002				< 0.002				-				0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.004	< 0.004				< 0.004				< 0.004				-				0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002				< 0.002				-				-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	< 0.002	< 0.002				< 0.002				< 0.002				-				-	-
ベンゼン(mg/L)	< 0.001	< 0.001				< 0.001				< 0.001				-				0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン(mg/L)	< 0.0002	< 0.0002				< 0.0002				< 0.0002				-				0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジオキサン(mg/L)	0.009	0.009				< 0.005				< 0.005				-				0.05mg/L	0.05mg/L
ダイオキシン類(pg-TEQ/L)	0.021	0.021				0.023				0.023				-				1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L
鉄(mg/L)	0.21	0.21				0.21				0.21				-				-	-
マンガン(mg/L)	0.77	0.77				12				12				-				-	-
溶解性鉄(mg/L)	0.20	0.20				0.03				0.03				-				-	-
溶解性マンガン(mg/L)	0.24	0.24				8.2				8.2				-				-	-
全窒素(mg/L)	0.17	0.17				7.12				7.12				-				-	-
アンモニア性窒素(mg/L)	< 0.05	< 0.05				6.97				6.97				-				-	-
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素(mg/L)	< 0.01	< 0.01				< 0.01				< 0.01				-				-	10mg/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロベンゾゲイテリル)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによるろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

表6 周辺地下水[Ks2+Ks3層]

		K s 2 + K s 3 層地下水					
調査地点	K-1						
採取日	R5. 5. 18						
現場測定項目	現場測定結果						
気温 (°C)	26.0						
水温 (°C)	15.5						
採水水深 (m) (GLより)	-						
分析項目	分析結果				年間平均値	安定型最終処分場の浸透水の基準	地下水環境基準
pH	5.8				5.8	-	-
BOD(生物化学的酸素要求量) (mg/L)	0.8				0.8	20mg/L	-
COD(化学的酸素要求量) (mg/L)	7.5				7.5	40mg/L	-
SS(浮遊物質) (mg/L)	1.1				1.1	-	-
電気伝導度 (mS/m)	91				91	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0.0003				< 0.0003	0.003mg/L	0.003mg/L
ヒ素 (mg/L)	< 0.005				< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08				< 0.08	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	0.8				0.8	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005				< 0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005				< 0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	不検出				不検出	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.001				< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005				< 0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002				< 0.002	0.1mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004				< 0.004	0.04mg/L	0.04mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002				< 0.002	-	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002				< 0.002	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0.001				< 0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
クロロエチレン (mg/L)	0.0006				0.0006	0.002mg/L	0.002mg/L
1,4-ジオキサン (mg/L)	0.023				0.023	0.05mg/L	0.05mg/L
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.022				0.022	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L
鉄 (mg/L)	8.3				8.3	-	-
マンガン (mg/L)	0.50				0.50	-	-
溶解性鉄 (mg/L)	7.9				7.9	-	-
溶解性マンガン (mg/L)	0.47				0.47	-	-

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロベンゾジ(イ)オキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

表7 表流水

調査地点	表流水									
	洪水調整池				経堂池					
採取日	R5.5.18				R5.5.18					
現場測定項目	現場測定結果				現場測定結果					
気温(°C)	30.0				26.0					
水温(°C)	30.6				21.5					
採水水深(m)(水面より)	0.21				0.50					
分析項目	分析結果			年間平均値	分析結果			年間平均値	公用水域環境基準	農業用水基準
pH	8.4			8.4	7.4			7.4	6.0~8.5	6.0~7.5
BOD(生物化学的酸素要求量)(mg/L)	1.1			1.1	3.2			3.2	8mg/L	-
COD(化学的酸素要求量)(mg/L)	3.7			3.7	6.0			6.0	-	6mg/L
SS(浮遊物質)(mg/L)	< 1.0			< 1.0	15			15	100mg/L	100mg/L
電気伝導度(mS/m)	15			15	14			14	-	30mS/m
カドミウム(mg/L)	< 0.0003			< 0.0003	-			-	0.003mg/L	-
ひ素(mg/L)	< 0.005			< 0.005	-			-	0.01mg/L	0.05mg/L
ふっ素(mg/L)	0.09			0.09	-			-	0.8mg/L	-
ほう素(mg/L)	< 0.1			< 0.1	-			-	1mg/L	-
鉛(mg/L)	< 0.005			< 0.005	-			-	0.01mg/L	-
総水銀(mg/L)	< 0.0005			< 0.0005	-			-	0.0005mg/L	-
PCB(mg/L)	不検出			不検出	-			-	検出されないこと (<0.0005mg/L)	-
トリクロロエチレン(mg/L)	< 0.001			< 0.001	-			-	0.01mg/L	-
テトラクロロエチレン(mg/L)	< 0.0005			< 0.0005	-			-	0.01mg/L	-
1,1-ジ'クロロエチレン(mg/L)	< 0.002			< 0.002	-			-	0.1mg/L	-
1,2-ジ'クロロエチレン(mg/L)	< 0.004			< 0.004	-			-	-	-
シス-1,2-ジ'クロロエチレン(mg/L)	< 0.002			< 0.002	-			-	0.04mg/L	-
トランス-1,2-ジ'クロロエチレン(mg/L)	< 0.002			< 0.002	-			-	-	-
ベンゼン(mg/L)	< 0.001			< 0.001	-			-	0.01mg/L	-
クロロエチレン(mg/L)	< 0.0002			< 0.0002	-			-	-	-
1,4-ジ'オキシベンゼン(mg/L)	< 0.005			< 0.005	-			-	0.05mg/L	-
ダイオキシン類(pg-TEQ/L)	0.025			0.025	-			-	1pg-TEQ/L	-
鉄(mg/L)	0.03			0.03	-			-	-	-
マンガン(mg/L)	0.04			0.04	-			-	-	-
溶解性鉄(mg/L)	0.02			0.02	-			-	-	-
溶解性マンガン(mg/L)	0.02			0.02	-			-	-	-
全窒素(mg/L)	0.30			0.30	0.48			0.48	-	1mg/L
アンモニア性窒素(mg/L)	0.06			0.06	-			-	-	-
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素(mg/L)	< 0.01			< 0.01	-			-	10mg/L	-
全りん(mg/L)	< 0.05			< 0.05	< 0.05			< 0.05	-	-
塩化物イオン(mg/L)	0.7			0.7	3.7			3.7	-	-

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロ'ベンゾ'グアイコシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 水中ポンプを用い、水深の中層の水を汲み上げた。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。ただし、全ての検出値が定量下限値未満の場合は年間平均値も同じ表記とした。基準値のない項目は参考値。

※ 公用水域環境基準 : 生活環境の保全に関する環境基準項目については河川の類型D(利用目的:農業用水等)の基準値。

※ 農業用水基準 : 水稲の生育に影響を与える項目について、用水の取入口における水準として、昭和45年に農林省の公害研究会が策定したものの。